

リハビリテーション医学

責任者・コーディネーター	リハビリテーション医学科 西村 行秀 教授		
担当講座・学科（分野）	リハビリテーション医学科		
担当教員	西村 行秀 教授、大井 清文 客員教授、上條 義一郎 非常勤講師、中村 健 非常勤講師、美津島 隆 非常勤講師、佐藤 義朝 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数	講義 8コマ 12.0時間
期間	前期		実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

リハビリテーションの治療の目的とするところは、①障害の克服、②機能の回復、③活動を育む、である。リハビリテーションは各臓器別専門診療科の治療に併用できるので、幅広い知識が必要となる。さらに療法士だけではなく、多くの職種の人々との協力、連携が必要となるため、コミュニケーション力とマネジメント力が必要となってくる。さらに急性期医療だけではなく、回復期、生活期医療においてもリハビリテーションの需要や期待は大きい。リハビリテーション医学とは臓器別診療ではなく対象者を一人ひとりと関わり全人的に対処し、対象者を細胞レベルから改善させる学問である。

・教育成果（アウトカム）

さまざまな障害を理解することで、リハビリテーション医学をとおして、その障害を克服し、機能を改善させ、活動性を育むことができるようになる。リハビリテーション医療である、理学療法、作業療法、言語療法、義肢装具療法、摂食・嚥下療法、薬物療法などを理解することで、適切なリハビリテーション医療について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1、2、3、4、5、6、7、8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	リハビリテーションの概要、その適応について説明できる。
2	リハビリテーション医療の中の理学療法、作業療法、言語聴覚療法などについて説明できる。
3	脳血管障害、脳外傷（高次脳機能障害も含む）の病態とリハビリテーションについて説明できる。
4	神経筋疾患の病態とリハビリテーションについて説明できる。
5	運動器（骨・関節、筋・神経）障害、切断や脊髄損傷の病態とリハビリテーションについて説明できる。
6	音声・言語障害および聴覚・平衡障害などコミュニケーション障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
7	摂食・嚥下障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
8	呼吸器疾患、心臓・循環器疾患や悪性腫瘍など内部障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
9	排尿、排便などの排泄障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
10	運動生理学やスポーツについて説明できる。
11	療法士、看護師など多職種との連携と協力の必要性について説明できる。

・講義場所

講義： 矢巾キャンパス西1-D講義室

・講義日程

区分	月日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容	到達目標 番号	コアカリ
講義	5/14(月)	3	リハビリテーション 医学科	西村 行秀 教授	リハビリテーション医学 総論	1、2、 11	F-2-14)①、 F-2-14)②
講義	5/14(月)	4	リハビリテーション 医学科	西村 行秀 教授	リハビリテーション診断学	2、11	F-3-2)⑤、 F-2-1)⑥、 E-8-1)⑩、 F-2-14)⑤
講義	5/21(月)	3	リハビリテーション 医学科	上條 義一郎 非常勤講師 (和歌山県立医科大学リハビリテーション 医学講座 准教授)	各論：運動生理・スポーツ 医学	10	C-2-3)-(4)⑤、 B-1-6)⑤
講義	5/21(月)	4	リハビリテーション 医学科	中村 健 非常勤講師 (横浜市立大学医学部リハビリテーション 科学講座 教授)	各論：内部障害、摂食嚥下 障害	7、8	E-8-1)⑦、 F-2-15)⑥、 D-5-3)⑬、 D-5-4)-(1)③、 D-5-4)-(2)⑥、 D-6-4)-(3)②
講義	5/28(月)	3	リハビリテーション 医学科	大井 清文 客員教授 (いわてリハビリテーションセンター 理事長)	各論：脳血管障害	3、6	D-2-4)-(1)②、 D-2-4)-(9)①、 D-2-4)-(4)③
講義	5/28(月)	4	リハビリテーション 医学科	美津島 隆 非常勤講師 (獨協医科大学リハビリテーション科学講 座 教授)	各論：運動器、脊髄損傷	5、9	D-4-4)-(1)⑩、 D-4-4)-(1)⑬、 F-1-28)①、 E-4-3)-(2)①
講義	6/4(月)	3	リハビリテーション 医学科	佐藤 義朝 非常勤講師 (いわてリハビリテーションセンター)	リハビリテーション治療学	1、2、 11	F-2-14)①、 F-2-14)②、 D-4-4)-(1)⑬、 F-2-14)③、 D-2-4)-(1)②、 D-5-4)-(2)⑥、 D-6-4)-(3)②
講義	6/4(月)	4	リハビリテーション 医学科	佐藤 義朝 非常勤講師 (いわてリハビリテーションセンター)	各論：神経筋疾患	4	D-2-1)-(1)①、 D-2-3)⑤、 E-8-1)⑥

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	最新リハビリテーション医学 3版	石神重信ほか編	医歯薬出版	2016
教科書	現代リハビリテーション医学 改訂3版	千野直一 編	金原出版	2009
推薦書	イラストと写真でわかる実践装具療法	久保俊一、田島文博 編集	金芳堂	2015
教科書	標準整形外科学 13版	松野丈夫、中村利孝 総編集	医学書院	2017
参考書	脳卒中の早期リハビリテーション 2版	二木立、上田敏 著	医学書院	1992
参考書	ロービジョンへの対応(「月刊眼科診療プラ クティス」61)	丸尾敏夫 編	文光堂	2000
教科書	狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション 改訂 4版	齋藤宗靖、後藤葉一 編	南江堂	2009
参考書	目でみるリハビリテーション医学 2版	上田敏 著	東京大学出版会	1994
参考書	運動負荷試験Q&A 119 改訂第2版	上嶋健治 著	南江堂	2013

教科書	呼吸ケア実践ハンドブック：管理とリハビリテーションのすべて	永井厚志 編	南江堂	2005
推薦書	基礎運動学 6版	中村隆一、齋藤宏、長崎浩 著	医歯薬出版	2003

・成績評価方法

総括評価：試験成績により評価する。
 形成的評価：講義中に口頭試問や議論形式の評価を行い、学生にフィードバックする。授業参加態度についても評価する。

・特記事項・その他

1. 各種リハビリテーションの概念
2. 中枢神経障害の運動リハビリテーション
3. 高次脳機能障害・神経疾患のリハビリテーション
4. 難聴・平衡障害と音声・言語障害のリハビリテーション
5. 視覚障害および低視力者のリハビリテーション
6. 精神疾患のリハビリテーション
7. 運動器疾患、神経障害のリハビリテーション
8. 呼吸器疾患のリハビリテーション
9. 心臓・循環器疾患のリハビリテーション
10. 消化器疾患のリハビリテーション
11. 腎・膀胱・排尿障害と性機能障害のリハビリテーション

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、図書館

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			